

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございませう。町民の皆さまには、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、4月に発生した熊本地震、6月の豪雨と大災害に見舞われ、御船町では想像もできないような甚大な被害を受けました。

相次いで襲いかかる災害の前に、我がふるさととはどうなってしまうのかと不安な日々もありましたが、全国各地の皆さまから沢山の義援金や寄附金、支援物資などをいただき、大変勇気づけられました。

また、発災当初から現在も引き続き、県内外の自治体から多くの職員派遣をいただき、感謝の念に堪えません。

現在、町民や企業、団体、行政が手を携えて、「オールみふね」の精神で一丸となり、復旧・復興に取り組んでいるところです。

今年は、震災前よりもさらに発展を遂げた復興を目指すため、「御船町震災復興計画」を3月までに策定します。

復興計画では、基本理念に

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、日頃より、町議会に對しましてご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は、4月に発生しました熊本地震や6・7月の梅雨前線豪雨により、町民の生活が一変した年となりました。

地震発生後、御船町に寄せられました自衛隊、他自治体及び多くのボランティアの皆様からのご支援に對し、心から感謝申し上げます。

発災以降、多くの町民の皆様がかつてない苦難に直面しており、今も、仮設住宅等で不自由な環境での生活を余儀なくされています。

今後、被災地区のインフラ整備や町民の生活再建に取組み、町民の皆様が一日も早く希望のもてる年になりますことを心から念願するものであります。

議会としましては、地震発生後直ぐに、全員協議会を開催し災害対応をしてきたところです。また、全議員による

「絆と共働を基調とした復興」「未来へつながる復興」の二つを柱に、▽被災者の生活再建▽地域コミュニティの再生▽災害に強いまちづくり▽公共施設の復旧▽産業の発展の5つに重点を置き、復興施策を進めていきます。

中でも、被災者の生活再建を最優先に、住み慣れた地域に住んでいただけるような支援を図り、御船町で安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいく方針です。

今回の震災では、人と人のつながり、地域のつながりが大切だと強く実感しました。

その一方で、地域からの人口流出をはじめ、公民館や集会所などのコミュニティ拠点被害を受けました。そこで、地域コミュニティの再生に向けて、地域支え合いセンター

災害復興支援特別委員会を設置し、復旧・復興に向けた取り組みを推進しています。

また、政府や国会に對しても、熊本地震及び梅雨前線豪雨に伴う復旧・復興に係る特別な支援を求めるための意見書を提出し、財政支援等の要望活動を積極的に行ってきました。

私たちは、今回の大地震や豪雨災害を克服し、一層強固な生活基盤の整備を行い、新たな発想で防災体制の充実強化を図り、次世代に繋ぐ「安心・安全」の確保に努めることこそが最大の使命と考えます。そのような中で英知を結集し、人と人、地域のつながり「絆」を大切にした協調行動が求められるものと痛感するものです。

熊本地震から9カ月が過ぎ、本年から、「御船町震災復興計画」に基づき具体的な行動に入りますが、議会としても町民の皆様の一日も早い生活の安定と復旧・復興に向け、また、御船町民みんなが

の活動支援や地域拠点の整備なども進めていきます。

また、震災をはじめ、あらゆる災害時には正確で迅速な情報伝達が求められますが、本町には町内全域への情報伝達手段が未整備です。

発災当初の混乱時には、災害関連情報を皆さまに迅速にお伝えすることができず、ご不便、ご迷惑をおかけしました。

本年は、震災復興計画に基づき、防災行政無線の整備を進めながら、災害に強いまちづくりを目指していきます。

最後に、本年が町民の皆さまにとって実り多き一年になりますことを祈念しまして、新春のごあいさつとします。

安心して住み続けられる町になるよう、町民の思い、声に寄り添った議会運営に努めてまいります。

新たな年を迎え、町議会としましては、その役割と責任の重さを自覚し、決意も新たに御船町をさらに魅力ある「まち」にするため全力を尽くしていく所存です。どうかこれからも力強いご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに町民皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

次世代に繋げる
「安心・安全」な町を目指します
議会 御船町議会議長 井本 昭**光**

オールみふねで
未来へつながる復興を成し遂げます
御船町長 藤木 正**幸** **行政**